

2008年度

群馬大学医学部小児科

卒業試験問題

問1. 正しいものはどれか。

- (1) 身長増加率は乳児期が最大である。
- (2) 身長増加は全年齢を通じて男児>女児である。
- (3) 身長増加のスパートの時期は男児が早い。
- (4) 新生児期の体重が3倍になるのは2~3歳である。
- (5) 男児における思春期発来は、精巣容量が4mlを超える時期である。

a. (1), (2) b. (1), (5) c. (2), (3) d. (3), (4) e. (4), (5)

問2. 正しいものはどれか。

- (1) Kaup指数とは、 $[\text{体重 (g)} / \text{身長 (cm)}^2] \times 10$ である。
- (2) 出生時の白血球分画は好中球優位である。
- (3) 乳児は胸式呼吸である。
- (4) 2~3ヶ月の乳児は多血症を示す。
- (5) 小泉門は生後6ヶ月ごろに閉鎖する。

a. (1), (2) b. (1), (5) c. (2), (3) d. (3), (4) e. (4), (5)

問3. 乳児の発達に関して、誤っているものはどれか。

- (1) 2カ月までに、首がすわる（定頸）ようになる。
- (2) 3カ月で体重は約2倍に増加する。
- (3) 8カ月までに、えんこ（おすわり）ができる。
- (4) 1才4カ月までに一人歩きできる。
- (5) 3才時の健診では、聴力、視力を含む総合的なチェックを行う。

a. (1) b. (2) c. (3) d. (4) e. (5)

問4. 学校保健、予防接種に関して、誤っているものはどれか。

- (1) わが国の麻疹ワクチン接種率は先進国の中でも高い。
- (2) BCG接種は生後3カ月までに行う。
- (3) 発熱や重篤な急性疾患に罹患していれば、予防接種は見合わせる。
- (4) インフルエンザは学校伝染病である。
- (5) 流行性耳下腺炎は特有の腫脹が消失するまで出席停止とする。

a. (1), (2) b. (1), (5) c. (2), (3) d. (3), (4) e. (4), (5)

問 5. 思春期によく見られる疾患として誤っているものはどれか。

- (1) 過換気症候群
- (2) 運動誘発性喘息
- (3) 起立性調節障害
- (4) 神経性食欲不振症
- (5) 注意欠陥・多動性障害 (ADHD)

a. (1) b. (2) c. (3) d. (4) e. (5)

問 6. 遺伝子異常によって生じる以下の先天性代謝異常症について、正しいものはどれか。

- (1) GALT 遺伝子変異による古典的ガラクトース血症は早急な治療を要する。
- (2) 先天性副腎過形成症の中では 17α 水酸化酵素欠損症の頻度が最も高い。
- (3) わが国のフェニルケトン尿症の頻度は欧米よりも高い。
- (4) Gaucher 病の唯一の治療は骨髄移植である。
- (5) Fabry 病は X 連鎖性劣性遺伝形式をとる。

a. (1), (2) b. (1), (5) c. (2), (3) d. (3), (4) e. (4), (5)

問 7. 誤っているものはどれか。

- (1) 4 歳の男児。ピーナッツ摂取後、突然の咳き込みがみられたため誤嚥と判断しハイムリッヒ法をおこなった。
- (2) 乳幼児突然死症候群と家庭内喫煙の関連が報告されている。
- (3) ゆさぶられっこ症候群では、硬膜下血腫や網膜出血がみられる。
- (4) 乳児の異物誤嚥の緊急対応には、背部殴打法を行う。
- (5) 灯油を誤飲した 3 歳男児。嘔吐誘発は行わずに病院に搬送した。

a. (1) b. (2) c. (3) d. (4) e. (5)

問 8. 乳児を診察するにあたり、正しいものはどれか。

- (1) 母乳栄養に比し、人工栄養の乳児では黄疸が遷延化しやすい。
- (2) 3 カ月の乳児で Moro 反射を認める。
- (3) 6 カ月児のエネルギー必要量は約 600~800 Kcal/日である。
- (4) 乳児で繰り返す授乳後の吐乳 (溢乳) は異常である。
- (5) 乳児の事故の原因として溺水が最も多い。

a. (1), (2) b. (1), (5) c. (2), (3) d. (3), (4) e. (4), (5)

問9. 小児の各年齢の所見として誤っているものはどれか。

- (1) 乳児の白血球分画ではリンパ球が優位である。
- (2) 乳児期前期の3-6カ月にIgGは最も低値となる。
- (3) Kaup指数が20以上であれば肥満傾向である。
- (4) 乳幼児の胸部X線写真では胸腺腫を高頻度に認める。
- (5) 学童では口蓋扁桃の肥大は稀である。

a. (1), (2) b. (1), (5) c. (2), (3) d. (3), (4) e. (4), (5)

問10. 原発性免疫不全症候群と所見との組合せで正しいのはどれか。

- (1) 胸腺低形成 (DiGeorge症候群) —— 12q11.2欠失症候群
- (2) X連鎖無ガンマグロブリン血症 —— CD40リガンド異常
- (3) 慢性肉芽腫症 —— 好中球遊走能低下
- (4) 毛細血管拡張性失調症 —— DNA修復障害
- (5) 高IgM症候群 —— Th1細胞への機能分化障害

a. (1), (2) b. (1), (5) c. (2), (3) d. (3), (4) e. (4), (5)

問11. 原発性免疫不全症で細胞性免疫が障害されているのはどれか。

- (1) X連鎖無ガンマグロブリン血症
- (2) 慢性肉芽腫症
- (3) Wiskott-Aldrich症候群
- (4) アデノシンデアミナーゼ欠乏症
- (5) Chediak-higashi 症候群

a. (1), (2) b. (1), (5) c. (2), (3) d. (3), (4) e. (4), (5)

問12. アナフィラキシーの治療に通常は用いられない薬剤はどれか。

- (1) エピネフリン
- (2) 抗ヒスタミン薬
- (3) 鎮静薬
- (4) 降圧薬
- (5) ハイドロコチゾン

a. (1), (2) b. (1), (5) c. (2), (3) d. (3), (4) e. (4), (5)

【以下の文を読み問いに答えよ】

9才の男児。既往歴：季節性アレルギー性鼻炎（5月に症状あり）。昨日、祖父母宅へ泊まりに行き、本日早朝より咳嗽、喘鳴が出現し、息苦しきで、眠れなかったため来院した。2年前にも、祖父母宅で発作を起こしたが、その後は、発作のエピソードはなく、治療も受けていなかった。祖父母宅にはネコを2匹飼っていて、祖父は喫煙者である。受診時、起座呼吸があり、呼気延長が著明で、鼻翼呼吸を認めた。胸部聴診では左右両側に呼気性喘鳴がわずかに聴取された。検査所見では酸素飽和度が88%、IgE 1520 IU/mlであった。

問13. 本症例の受診前の重症度と、今回受診時の発作程度の正しい組み合わせはどれか。

- | | |
|------------|-----|
| (1) 間欠型 | 大発作 |
| (2) 軽症持続症 | 中発作 |
| (3) 軽症持続症 | 大発作 |
| (4) 中等症持続型 | 中発作 |
| (5) 重症持続型 | 大発作 |

a. (1) b. (2) c. (3) d. (4) e. (5)

問14. 本患児で正しいものはどれか。

- (1) 非発作時では肺活量正常、1秒量正常が予想される。
- (2) 吸入前のピークフロー値は、自己最良値の60%である。
- (3) アレルギー性鼻炎の原因としてヨモギ花粉が考えられる。
- (4) 理学的所見では、陥没呼吸は認めない。
- (5) 受動喫煙は、喘息悪化因子である。

a. (1), (2) b. (1), (5) c. (2), (3) d. (3), (4) e. (4), (5)

問15. 治療について正しいものはどれか。

- (1) 交感神経β1受容体刺激薬の吸入を用いる。
- (2) アシドーシスが強い場合でも重曹水によるpHの補正は不要である。
- (3) 症状の改善が不良であれば、イソプロテレノール持続吸入を行う。
- (4) テオフィリンの有効血中濃度は50-100 μg/mlである。
- (5) ステロイドホルモンは感染時喘息増悪には禁忌である。

a. (1) b. (2) c. (3) d. (4) e. (5)

問 16. 小児の呼吸器疾患について誤っているものはどれか。

- (1) 気管支狭窄症では、高調性の喘鳴(wheezing)が聴取される。
- (2) 急性喉頭蓋炎では、吸気時の喘鳴(stridor)が聴取される。
- (3) 低年齢の百日咳では犬吠様の咳嗽が聞かれる。
- (4) 遷延する咳嗽の原因に胃食道逆流症(GERD)がある。
- (5) 小児の無呼吸症候群の原因に、気道の閉塞性疾患の頻度が高い。

a. (1) b. (2) c. (3) d. (4) e. (5)

問 17. 小児の上・下気道感染症について、正しいものはどれか。

- (1) ヘルパンギーナは夏季に流行する。
- (2) 冬季の無熱性鼻炎の原因としてライノウイルスの頻度が高い。
- (3) 新生児期肺炎の大多数はRSウイルスが原因である。
- (4) 百日咳では末梢血中のリンパ球数が減少する。
- (5) 結核の診断にクオンティフェロンが用いられる。

a. (1), (2) b. (1), (5) c. (2), (3) d. (3), (4) e. (4), (5)

【以下の文を読み問いに答えよ】

11歳の男児。一昨日より、鼻汁、咳が出現したが、経過をみていた。本日の夕より突然、苦しいと訴えたため、当院の救急外来を受診した。体温は37.8℃、呼吸数は42回/分であったがチアノーゼはみられなかった。胸部聴診で喘鳴は聴取されなかったが、右の呼吸音が明らかに低下していた。既往歴には特記すべきことはなかった。胸部X線写真を示す(図1)。

問 18. 本症例で最も疑われる疾患は下記のどれか。

- (1) 細菌性肺炎
- (2) クループ症候群
- (3) 気管支異物
- (4) 急性細気管支炎
- (5) 気胸

a. (1) b. (2) c. (3) d. (4) e. (5)

問 19. 本疾患について正しいものはどれか。

- (1)呼吸音の低下した原因は気道閉塞である。
- (2)急性期を過ぎたら、ステロイド薬の長期吸入を行う。
- (3)酸素飽和度 (SpO₂) は 85%以下である。
- (4)外科的な手法は必ずしも必要ではない。
- (5)直ちに酸素の吸入を行う。

a. (1), (2) b. (1), (5) c. (2), (3) d. (3), (4) e. (4), (5)

問20. 小児の全身性エリテマトーデスについて正しいものはどれか。

- (1)関節炎は骨破壊を伴う。
- (2)一卵性双生児での発症一致率は80%程度である。
- (3)蝶形紅斑は頬のみならず鼻梁に掛かるのが特徴である。
- (4)皮膚生検では、真皮表皮結合部IgGの沈着が認められる。
- (5)ループス腎炎の合併は稀である。

a. (1), (2) b. (1), (5) c. (2), (3) d. (3), (4) e. (4), (5)

問21. 若年性関節リウマチについて正しいものはどれか。

- (1)20歳以下で発症する関節リウマチと定義される。
- (2)全身型は、リウマトイド因子、抗核抗体は共に陽性である。
- (3)多関節型は、発病の1年以内に5か所以上の関節に炎症がみられる。
- (4)リウマトイド因子陽性の多関節型は関節炎の予後が悪い。
- (5)少関節型は、小児に特有な病型である。

a. (1), (2) b. (1), (5) c. (2), (3) d. (3), (4) e. (4), (5)

問22. 手足口病で誤りはどれか。

- (1)幼児を中心に冬季に流行が見られる。
- (2)コクサッキーA16、エンテロウイルス71などでおこる。
- (3)エンテロウイルス71によるものは中枢神経系合併症の発生率が高い。
- (4)最近数年間にアジア地域で死亡例を伴う流行が見られた。
- (5)口腔粘膜、手掌、足底や足背などの四肢末端に2~3mmの丘疹が出現する。

a. (1), (2) b. (1), (5) c. (2), (3) d. (3), (4) e. (4), (5)

【以下の文を読み問いに答えよ】

3カ月の男児、周生分産歴に異常なし。数日前から鼻汁を認めていた。昨日より咳嗽が見られていたが、今朝になり突然、息を止めて顔色が蒼白になることを繰り返すため受診した。なお、3歳の兄が2週間前に断続的な咳発作を認めていた。

問23. 本症例の確定診断のため必要な検査はどれか。

- (1) 赤沈
- (2) 検尿
- (3) 鼻咽頭培養
- (4) 白血球数
- (5) 便潜血

a. (1) b. (2) c. (3) d. (4) e. (5)

問24. 本疾患で正しいものはどれか。

- (1) 合併症として痙攣や脳症がある。
- (2) 咳嗽発作を繰り返すレプリーゼが特徴である。
- (3) 感染力はカタル期には減少する。
- (4) 成人より小児の方が症状は軽い。
- (5) MRワクチンは本症の予防に重要である。

a. (1), (2) b. (1), (5) c. (2), (3) d. (3), (4) e. (4), (5)

問25. 本疾患の治療で第1選択となる抗菌薬はどれか。

- (1) ペニシリン系
- (2) マクロライド系
- (3) テトラサイクリン系
- (4) カルバペネム系
- (5) セファロスポリン系

a. (1) b. (2) c. (3) d. (4) e. (5)

問26. 疾患と便の性状の組み合わせで、正しいものを2つ選べ。

- (1) イチゴゼリー様血便： 腸重積
- (2) タール便： 潰瘍性大腸炎
- (3) 灰白色便： 慢性胃炎

- (4) 脂肪便： 乳児肝炎
(5) 水様便： 先天性クロール下痢症

a. (1), (2) b. (1), (5) c. (2), (3) d. (3), (4) e. (4), (5)

問 27. 小児の膵炎の原因として最も頻度が高いものを選び。

- (1) 胆石症
(2) 膵胆管合流異常
(3) 流行性耳下腺炎
(4) 高脂質血症
(5) 外傷

a. (1) b. (2) c. (3) d. (4) e. (5)

【以下の文を読み問いに答えよ】

日齢 25、男児。在胎 38 週、2980 g にて出生。妊娠中に羊水過多なし。その他には、妊娠出生歴に異常なし。5 日前から嘔吐があり、次第に回数が増加、昨日は大量のミルクを 5 回吐いた。授乳意欲はある。来院時、全身状態良好で発熱なし。体重は 3750g (1 週間前には 3820g)。上腹部が軽度膨隆し、正中にピーナッツ大の腫瘤を触知する以外には理学所見に異常を認めない。

問 28. 以下の疾患のうち、嘔吐が新生児期にみられないものはどれか。

- (1) 胃食道逆流症
(2) アセトン血性嘔吐症 (周期性嘔吐症)
(3) 髄膜炎
(4) 肥厚性幽門狭窄症
(5) 総胆管拡張症

a. (1) b. (2) c. (3) d. (4) e. (5)

問 29. 本患児にあてはまるものを選び。

- (1) 家族性にみられることが多い。
(2) 高クロール性アルカローシスが見られる可能性がある。
(3) 嘔吐は無胆汁性である。
(4) 確定診断のためには超音波検査が適している。
(5) 腫瘤を摘出することが必要である。

- a. (1), (2) b. (1), (5) c. (2), (3) d. (3), (4) e. (4), (5)

問 30. 正しいものを選べ。

- (1) 一つの腎臓に糸球体は約 100 万個存在している。
- (2) 肥厚性幽門狭窄症では代謝性アシドーシスを生じることが多い。
- (3) 1 歳児の体重は出生時体重の約 2 倍である。
- (4) 人工栄養の児の便はビフィズス菌が優位である。
- (5) II 型 (近位型) 尿細管性アシドーシスの本態は HCO_3^- の再吸収障害である。

- a. (1), (2) b. (1), (5) c. (2), (3) d. (3), (4) e. (4), (5)

問 31. 上部尿路感染症について誤っているものを選べ。

- (1) 原因菌として最も多いのは E. coli である。
- (2) 1 歳未満は女児が多く、1 歳以降は男児が多い。
- (3) 乳児期発症の場合、成人に比べ敗血症を合併しやすい。
- (4) 膀胱尿管逆流があると再発を来しやすい。
- (5) 尿定量培養では 1×10^5 /ml 以上を有意とする。

- a. (1) b. (2) c. (3) d. (4) e. (5)

問 32. 血清 Na 濃度に影響を及ぼしにくいホルモンはどれか。

- (1) アンギオテンシン II
- (2) アルドステロン
- (3) 心房利尿ペプチド
- (4) バソプレッシン
- (5) 副甲状腺ホルモン

- a. (1) b. (2) c. (3) d. (4) e. (5)

【以下の文を読み問いに答えよ】

5 歳女児。5 月 10 日に殿部、大腿部に米粒大の紫斑が多数出現。12 日より腹痛と膝関節腫張を軽度認めた。以後外来にて経過観察され、関節、腹部症状は落ち着くも紫斑は消退、増悪を繰り返した。24 日に初めて尿異常 (尿蛋白(++)、潜血(+++)) を指摘された。血圧 100/48 mmHg、浮腫なし。関節、腹部症状なし。検査結果で WBC 8900/mm³ Hb 12.3g/dl Plt 40.2×10^4 /mm³、CRP 0.12 mg/dl、PT 91%、APTT 29

秒、fibrinogen 377 mg/dl、ATⅢ 81%、第ⅤⅢ因子 50%、TP 6.8 g/l、Alb 4.0 g/dl、BUN 11 mg/dl、Cr 0.3 mg/dl、AST 10 IU/l、ALT 12 IU/l、LDH 156 IU/l、TChol 140 mg/dl、IgG 880 mg/dl、IgA 450 mg/dl。尿所見は、尿蛋白(++)、尿潜血(+++)、沈渣でRBC 70~100/HPF、赤血球円柱 16/全視野であった。

問 33. この疾患につき正しいものはどれか。

- (1) 腎症の合併は5%前後である。
- (2) 血便を生じることが稀である。
- (3) ステロイド薬は無効である。
- (4) 腎予後は腎組織での半月体の程度に相関する。
- (5) 尿沈渣で赤血球の大小不同がみられる。

a. (1), (2) b. (1), (5) c. (2), (3) d. (3), (4) e. (4), (5)

問 34. 本症例の腎組織所見について正しいものはどれか。

- (1) 光学顕微鏡所見でメサンジウム細胞の増殖がある。
- (2) 蛍光顕微鏡所見で主にIgMが沈着する。
- (3) 電子顕微鏡所見で基底膜の菲薄化が認められる。
- (4) 蛍光顕微鏡所見で主にIgGが沈着する。
- (5) 電子顕微鏡所見で electron dense deposit (電子高密度物質) がメサンジウム領域に沈着する。

a. (1), (2) b. (1), (5) c. (2), (3) d. (3), (4) e. (4), (5)

問 35. 先天性心疾患と外科的治療について正しい組み合わせはどれか。

- (1) 総動脈幹症 - Mustard 手術
- (2) Fallot 四徴症+肺動脈閉鎖 - Ross 手術
- (3) 単心室症 - Fontan 手術
- (4) 完全大血管転位症 - Jatene 手術
- (5) 総肺動脈還流異常症 - Norwood 手術

a. (1), (2) b. (1), (5) c. (2), (3) d. (3), (4) e. (4), (5)

問 36. 川崎病の主要症状として誤っているものを選べ。

- (1) BCG 接種部の発赤
- (2) 膜様落屑

- (3) 両側眼球結膜充血
- (4) 非化膿性頸部リンパ節腫脹
- (5) 硬性浮腫

a. (1) b. (2) c. (3) d. (4) e. (5)

【以下の文を読み問いに答えよ】

日齢 10 の新生児。多呼吸と哺乳力低下を主訴に来院した。母は 29 歳初産婦。妊娠経過中に異常所見を指摘されたことなし。在胎 38 週 4 日、2897g にて出生、Apgar score 9-9-9。日齢 4 に産科退院した。日齢 9 に哺乳力低下と多呼吸が出現し、その後も改善しないため日齢 10 に救急外来受診。来院時現症は、体重 2912g、呼吸数 80/分、心拍 170/分、血圧右上肢 68/34mmHg、SpO₂ 右上肢 97% 左下肢 90%。血液検査所見で、ヘモグロビン 15.4 g/dL、白血球数 8900/ μ L、血小板数 32 万/ μ L、AST 45 IU/L、ALT 32 IU/L、LDH 321 IU/L、総ビリルビン 12.4 mg/dL、Na 134 mmol/L、K 5.7 mmol/L、Cl 99 mmol/L、血清クレアチニン 0.9 mg/dL、BUN 18 mg/dL、BNP 1287 pg/mL、pH 7.218、PaCO₂ 25mmHg、PaO₂（右橈骨動脈より採血、room air）79mmHg、BE -22.3 mmol/L、心エコー像（四腔断面像，図 2）ならびに上行大動脈造影（図 3. 上段 正面像，下段 側面像）を供覧する。

問 37. この患者で得られる理学的所見はどれか。

- (1) 大腿動脈触知不可
- (2) 大きな心雑音
- (3) 呼気性喘鳴
- (4) 全身性チアノーゼ
- (5) 肝腫大

a. (1), (2) b. (1), (5) c. (2), (3) d. (3), (4) e. (4), (5)

問 38. この患者の治療として適切なものはどれか。

- (1) 酸素投与
- (2) 人工呼吸管理
- (3) プロスタグランジン製剤静注
- (4) modified Blalock-Taussig 手術
- (5) 心室中隔欠損閉鎖術

a. (1), (2) b. (1), (5) c. (2), (3) d. (3), (4) e. (4), (5)

問 39. 正しいものを選べ。

- (1) 在胎7ヶ月時点では卵黄嚢が胎児造血の中心である。
- (2) 新生児の平均赤血球容積は成人にくらべて低い。
- (3) 母乳栄養児は人工栄養児に比べて貧血になりやすい。
- (4) 未熟児貧血の治療にエリスロポエチンが投与される。
- (5) 経口鉄剤の投与はヘモジデローシスを防ぐために短期間投与とする。

a. (1), (2) b. (1), (5) c. (2), (3) d. (3), (4) e. (4), (5)

問 40. 正しい組み合わせを選べ。

- (1) 若年性骨髄単球性白血病(JMML) - BCR/ABL キメラ遺伝子陽性
- (2) B 前駆細胞性急性リンパ性白血病 - t(12;21)(q23;p13)
- (3) 乳児白血病 - MLL 遺伝子再構成
- (4) Down 症候群 - AML(M3)
- (5) T 細胞性急性リンパ性白血病 - CD19 陽性

a. (1), (2) b. (1), (5) c. (2), (3) d. (3), (4) e. (4), (5)

問 41. 正しいものはどれか。

- (1) 小児の ITP の多くは感染症に続発した急性 ITP である。
- (2) Langerhans cell histiocytosis で尿崩症を合併する。
- (3) 血友病では PT 延長、APTT 正常のパターンをとる。
- (4) 血球貪食症候群では血清フェリチン値が低下する
- (5) 家族性血球貪食症候群 (FHL) は多くが自然軽快する。

a. (1), (2) b. (1), (5) c. (2), (3) d. (3), (4) e. (4), (5)

【以下の文を読み問いに答えよ】

6歳男児。主訴は鼻出血・発熱。既往歴として4歳時に流行性耳下腺炎。家族歴は母親にアレルギー性鼻炎。2週間前より幼稚園から帰ってくると疲れたと行ってすぐに横になってしまう様子であった。3日前より38℃台の発熱があり、近医にて感冒薬と解熱剤を処方されて経過観察していたところ、起床後より鼻出血が出現し、1時間以上止血しないとのことで来院した。来院時現症は、身長115cm、体重19kg、HR 120/min 呼吸数 35/min 血圧 105/60mmHg。顔色は全体に蒼白、眼瞼結膜は貧血様、口腔内に粘膜下出血斑が点在。胸部で Levine I/VIの収縮期雑音を聴取、肺

音に異常なし。腹部は肝を辺縁のみ触知、脾を触れず、圧痛、筋性防御なし。四肢は下腿を中心に紫斑が散在。病的リンパ節を触れず。

検査所見では、Hb 5.2g/dl、RBC $151 \times 10^4 / \mu\text{l}$ 、Hct 14.2%、網状赤血球比率 1%、WBC $1900 / \mu\text{l}$ (好中球 15%、好酸球 1%、好塩基球 0%、単球 5%、リンパ球 79%)、血小板 $0.8 \times 10^4 / \mu\text{l}$ 、フィブリノーゲン 230 mg/dl、PT活性 96%、APTT 29.3 sec、FDP 2.1 $\mu\text{g/ml}$ 、総蛋白 6.2 g/dl。アルブミン 3.9 g/dl、総ビリルビン 0.4 mg/dl、AST 20 IU/l、ALT 18 IU/l、LDH 202 IU/l、Na 139 mEq/l、K 4.1 mEq/l、Cl 101 mEq/l、CRP 3.2 mg/dl。骨髓塗沫標本像 (ライト・ギムザ染色) を示す (図 4)。

問 42. 次の中で汎血球減少症を示す疾患を選べ。

- (1) Diamond-Blackfan 貧血
- (2) 慢性骨髄性白血病
- (3) Kostmann 症候群
- (4) Fanconi 貧血
- (5) 特発性再生不良性貧血

a. (1), (2) b. (1), (5) c. (2), (3) d. (3), (4) e. (4), (5)

問 43. 本症例について正しいものを選べ。

- (1) 筋肉や関節などの深部出血が特徴的である。
- (2) 全身状態を良好に保つために積極的に輸血療法をおこなう。
- (3) 臍帯血移植が治療の第一選択である。
- (4) シクロスポリンが有効な症例がある。
- (5) 病勢の評価に MRI が有用である。

a. (1), (2) b. (1), (5) c. (2), (3) d. (3), (4) e. (4), (5)

問 44. 在胎 32 週、出生体重 1650g で出生し、生後 30 分くらいから多呼吸を認めた児。呼吸数 76/分、心拍数 158/分、陥没呼吸、呻吟を認める。外表奇形は認めず、心雑音も聴取しなかった。この患児で呼吸障害の鑑別診断に不要な検査はどれか。

- (1) 胃液マイクロバブルテスト
- (2) 血清 IgG 値
- (3) PIVKA-II
- (4) CRP 値
- (5) 胸部単純 X 線撮影

a (1), (2) b (1), (5) c (2), (3) d (3), (4) e (4), (5)

問 45. 在胎 38 週、出生体重 3051g、Apgar スコア 5 分後 9 点で出生し、母乳のみで栄養されている日齢 28 の乳児。日齢 30 に 1 ヶ月健診受診予定であった。昨日から哺乳不良、不機嫌を認め、今朝からほとんど泣かなくなり来院した。身長 53cm、体重 4120g、心拍数 150 毎分、皮膚は黄白色。大泉門は膨隆している。左上肢は動作に乏しかった。入院時の採血では、穿刺部から出血が持続し、止血が困難であった。入院時の頭部単純 CT 像を示す (図 5)。

この児でみられる所見を選べ。

- (1) 血小板減少症
- (2) HBsAg 高値
- (3) 四肢の外傷
- (4) PIVKA-II 高値
- (5) ヘパプラスチンテスト低下

a (1), (2) b (1), (5) c (2), (3) d (3), (4) e (4), (5)

問 46. 新生児けいれんの原因として誤りを選べ。

- (1) 低カルシウム血症
- (2) 脳室内出血
- (3) 脳室周囲白質軟化症
- (4) ビタミン A 欠乏症
- (5) 低血糖症

a (1), (2) b (1), (5) c (2), (3) d (3), (4) e (4), (5)

【以下の文を読み問いに答えよ】

妊娠 34 週 3 日、前置胎盤の妊婦が性器出血を認めたため、緊急帝王切開術にて男児を娩出した。児は出生体重 1780g であった。

問 47. 出生直後の児に行う蘇生処置として適切なものはどれか。

- (1) 体温 37 度になるように保温した。
- (2) 鼻腔のみの吸引を行った。
- (3) 児の頬を叩いて自発呼吸を促した。
- (4) 直ちに気管挿管を試みた。

(5) 児の背中を刺激して自発呼吸を促した。

a (1), (2) b (1), (5) c (2), (3) d (3), (4) e (4), (5)

問 48. 1 分後の状態は、四肢の運動は活発で、強い啼泣を認めた、鼻腔の吸引をすると顔をしかめ、全身のチアノーゼを認め、心拍数は 120 毎分であった。児の 1 分後のアプガースコアは何点か。

- (1) 1 点
- (2) 3 点
- (3) 5 点
- (4) 7 点
- (5) 10 点

a. (1) b. (2) c. (3) d. (4) e. (5)

問 49. 次の蘇生ステップとして正しいものはどれか。

- (1) 蘇生用マスクを用いて人工呼吸を開始した。
- (2) さらに鼻腔の吸引のみを繰り返し行った。
- (3) 酸素投与を行った。
- (4) 直ちに胸骨圧迫心臓マッサージを開始した。
- (5) 直ちに気管挿管を試みた。

a. (1) b. (2) c. (3) d. (4) e. (5)

問 50. 男性仮性半陰陽を呈する疾患はどれか。

- (1) アロマトーゼ欠損症
- (2) 21 水酸化酵素欠損症
- (3) 11 β 水酸化酵素欠損症
- (4) 17 α 水酸化酵素欠損症
- (5) 5 α リダクターゼ欠損症

a (1), (2) b (1), (5) c (2), (3) d (3), (4) e (4), (5)

問 51. クレチン症の診断のために必要な検査はどれか。

- (1) 下垂体前葉機能検査
- (2) 頸部超音波検査

- (3) 大腿骨遠位端 X P
- (4) 手根骨 X P
- (5) 副腎皮質機能検査

a (1), (2) b (1), (5) c (2), (3) d (3), (4) e (4), (5)

問 52. 思春期の Turner 症候群で高頻度に認められるものを選べ。

- (1) リンパ浮腫
- (2) 低コレステロール血症
- (3) 低身長
- (4) 二次性徴の欠如
- (5) 副腎皮質機能低下症

a (1), (2) b (1), (5) c (2), (3) d (3), (4) e (4), (5)

【以下の文を読み問いに答えよ】

6 歳の女兒が意識障害を主訴に救急車にて来院した。2 か月前より多飲多尿が見られ、3 ヶ月前は 20 k g であった体重は 17 k g に減少した。来院時、痛み刺激に反応なく、呼吸は Kussmaul 呼吸を呈していた。入院時緊急検査で、動脈血血液ガス (room air) では pH 7.005、P02 98.0 mmHg、PC02 12 mmHg、BE -23.5 nmol/L であり、血糖 780 mg/dl、ヘモグロビン A1c 15.6 %、Na 145 mEq/L、K 6.1 mEq/L、Cl 102 mEq/L、尿糖 (4+)、尿ケトン (4+) であった。

問 53. 最も優先して行なうべき処置を選べ。

- (1) 利尿薬投与
- (2) 重炭酸ナトリウム (メイロン) の投与
- (3) 生理的食塩水の輸液
- (4) ペーパーバッグ療法
- (5) インスリンの持続静脈内投与

a. (1) b. (2) c. (3) d. (4) e. (5)

問 54. 確定診断のために必要な検査はどれか。

- (1) 24 時間蓄尿中の尿中 C-ペプチド総量
- (2) 抗 GAD 抗体
- (3) 血中インスリン濃度

- (4) 有機酸分析
- (5) 経口ブドウ糖負荷試験

a (1), (2) b (1), (5) c (2), (3) d (3), (4) e (4), (5)

問55. この疾患について正しいものを選び。

- (1) 約 1/3 の症例で経口血糖降下薬が有効である。
- (2) 遺伝形式は常染色体性優性である。
- (3) 自己免疫性甲状腺疾患を合併しやすい。
- (4) 急性腹症としての発症がある。
- (5) 発症前に肥満を伴うことが多い。

a (1), (2) b (1), (5) c (2), (3) d (3), (4) e (4), (5)

問56. 小児の発作性疾患について、誤りはどれか。

- (1) 単純型熱性けいれんの多くは5歳以降に自然軽快する。
- (2) 憤怒けいれん(泣き入りひきつけ)は月齢1~2ヶ月で発症する。
- (3) 過呼吸は欠神発作の誘発方法である。
- (4) 大田原症候群における発作間欠時の特徴的な脳波所見は suppression-burst である。
- (5) 片頭痛は通常拍動性の頭痛である。

a. (1) b. (2) c. (3) d. (4) e. (5)

問57. 小児の神経疾患について、正しいものはどれか。

- (1) 小児の急性顔面神経麻痺(Bell麻痺)では、麻痺が残ることが多い。
- (2) 細菌性髄膜炎では髄液検査にて単核球優位に細胞数が増加する。
- (3) ヘルペス脳炎が疑われたら、早期にアシクロビルを投与する。
- (4) 亜急性硬化性全脳炎は麻疹罹患後5~8年で発症する。
- (5) Guillain-Barre症候群では四肢の深部腱反射が亢進する。

a (1), (2) b (1), (5) c (2), (3) d (3), (4) e (4), (5)

問58. 小児の神経・筋疾患について、誤りはどれか。

- (1) Werdnig-Hoffmann病ではフロッピーインファントを認める。
- (2) 福山型先天性筋ジストロフィーは精神運動発達遅滞を伴うことが多い。

- (3) Duchenne型進行性筋ジストロフィーは常染色体劣性遺伝病である。
(4) 先天性ミオパチーでは血清CK値は正常である。
(5) 重症筋無力症は神経筋接合部のアセチルコリン受容体を標的とする自己免疫性疾患である。

a. (1) b. (2) c. (3) d. (4) e. (5)

問59. 小児の精神疾患について、誤りはどれか。

- (1) 自閉症ではひとり遊びが多い。
(2) 自閉症と診断したら直ちに薬物療法を開始する。
(3) チックの原因は、親の関わりの問題である。
(4) 神経性食思不振症では、徐脈や低体温を認めやすい。
(5) 小児に対する言葉による暴力も虐待のひとつである。

a(1), (2) b(1), (5) c(2), (3) d(3), (4) e(4), (5)

【以下の文を読み問いに答えよ】

9ヶ月男児。在胎週数39週、体重2800gで出生。1ヶ月健診にて心雑音を認めたため心エコーを施行し、心臓横紋筋肉腫を確認した。また出生時より皮膚に白斑が散在していた。定頸は5ヶ月、寝返りや坐位はできず、有意な発語もなし。約2週間前より、覚醒中頭部を前屈し上下肢を一瞬だけ挙上する発作を、繰り返し起こすようになった。また発作がみられるようになってから、機嫌が悪くなった。小児科を受診したところ、てんかんの疑いがあるため脳波検査をすすめられた。記録された発作間欠時の脳波が図6である。本例が1歳半の時に撮影した脳MRI画像(図7, 上段 T1強調画像, 下段 FLAIR像)も示す。

問60. 本例について正しいものはどれか。

- (1) 受診時(9ヶ月)の運動発達は遅れている。
(2) 最も考えられる疾患はSturge-Weber症候群である。
(3) 発作型は全般性強直間代発作である。
(4) 図7の脳波所見はsuppression-burstである。
(5) この症例のてんかんはWest症候群である。

a(1), (2) b(1), (5) c(2), (3) d(3), (4) e(4), (5)